

仕様書

評価部

1. 件名

追跡調査結果を用いた NEDO のプロジェクトマネジメント高度化に関する基礎調査

2. 背景・目的

NEDO では、NEDO が実施した研究開発プロジェクトの開発成果が社会にもたらす効果・便益を把握することによって説明責任の向上を図るとともに、NEDO のプロジェクトマネジメントや企画立案機能の向上に資することを目的として、プロジェクト終了後の追跡調査（アンケート、インタビュー、ケーススタディ等）を実施している。

2018 年度より開始された第 4 期中長期計画では、数値目標として「成果」と「実用化の見通し」に加え「マネジメント」も指標となったことから、今後、NEDO が行ったマネジメントの効果・要因分析の結果が求められることが想定される。また、ナショナルプロジェクト（非連続ナショナルプロジェクト以外）の事業終了後、5 年経過後の時点での実用化達成率を 25%以上とすることを数値目標（基幹目標）としているとともに、「社会にもたらした経済効果（アウトカム）を把握する既存の取組を継続する」ことが明記された。

本調査では、今後、プロジェクトマネジメントの一層の高度化により成果の最大化を図るため、プロジェクトの実施体制と追跡調査アンケートから得られた実用化状況（短期的アウトカム）の関連性に着目し、最適な実施体制につながるプロジェクトマネジメント手法に関する情報収集及び分析・考察を行う。なお、分析にあたり、過去の評価結果データベースや昨年度実施したアウトカムを把握するための基礎調査のデータ等も活用する。

3. 内容

上記の目的を達成するために下記項目を実施する。

なお、実施にあたっては、NEDO との密接な連携の下で行うものとする。

(1) プロジェクト実施体制の類型化

NEDO が過去実施した研究開発プロジェクトを対象として、その研究開発段階に応じた類型化を行う。なお、類型化にあたっては、プロジェクトの実施方針、評価報告書などから情報を収集し、NEDO が指示する方法に基づき実施する。

対象とするプロジェクトは、2008 年度から 2015 年度に終了したプロジェクト（約 200 件）とする。

(2) 実用化状況との関係性の分析・考察

(1) で類型化したプロジェクトについて、追跡調査から得られた実用化状況（短期的アウトカム）との相関関係などを分析し、プロジェクトマネジメントに有効な手法を考

察する。なお、分析・考察にあたっては、予め先行研究をレビューした上で、参考となる方法論や新たな仮説に基づき行うこと。

(3) 評価結果データベース等を活用した考察

(1) 及び(2)を踏まえ、過去の評価結果データベースや昨年度実施した「NEDOプロジェクトのアウトカム把握のための基礎調査」におけるデータ（アウトカム発現状況等）を活用し、評価結果や中長期的なアウトカム発現（経済効果やタイムラグなど）と実施体制の関係性について、最適なマネジメント手法につながる考察を行う。なお、考察にあたっては、NEDO から提供するデータ（予算額等）の一部更新を行った上で実施すること。

4. 調査期間

NEDO が指定する日から 2020 年 3 月 23 日まで

5. 予算額

1,200万円以内

6. 報告書

提出期限：2020 年 3 月 23 日

提出部数：電子媒体 CD-R（PDF ファイル形式） 1 枚

※報告書に含めるべき範囲については NEDO より別途指示する。

提出方法：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

7. 報告会等の開催

委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。

8. その他

(1) NEDOから提供したデータは、調査完了日までにNEDOに返却する。また、提供データを保存したパソコン内からも、本調査内で作成したデータを含めて、全て削除すること。

(2) 調査の進捗状況は、NEDOの求めに応じて随時報告（2回/月程度）すること。

(3) 本仕様書に定めなき事項については、NEDOと実施事業者が協議の上で決定するものとする。